

“Policy evaluation in parliament: interest groups as catalysts”

「議会における政策評価：触媒としての利益集団」

Frédéric Varone, Pirmin Bundi, Roy Gava

Abstract

国会議員は政策評価を要求し、その結果を立法の情報源にするため、又は政府の説明責任を追及するために評価結果を利用する。議員は利益団体との強固な結束を築き上げているため、これらの特権的な関係が国会議員の議会における行動に影響を及ぼすか否かが疑問になる。

本研究では、国会議員と利益団体との関係が、国会議員による政策評価の要求にどのように影響するのかを調査する。実証的なエビデンスによれば、それぞれの政党又は個人の特徴に関係なく、国会議員は利益団体に関係がある政策領域において、より政策評価を求める傾向にあることが示されている。この効果は、立法府の委員会の委員としての地位のような、国会議員の政策上の専門分化に関する古典的な指標を統制した場合でも維持される。これらの本研究成果は、国会議員と特定の利益団体との結びつきは異なる政策領域における議会の行動を説明するにあたり、考慮すべき事項であることを示唆している。

Points for practitioners

政策立案過程に影響を与えるために、利益団体は諮問の手續や議会での公聴会に参加したり、公選職にロビイングをしたり、意思決定者に政策に関する専門的知見を授けたりしている。これらの唱導戦略はよく研究されている。

これらの先行研究の知見に加えて、本論文では利益団体が政策評価の発展を促すことを示す点において新規性がある。特定の問題に関して積極的に活動する利益団体と関係のある国会議員は、その政策領域において、より政策評価を求める傾向にある。利益団体は政策評価の研究に対する議会の要求を強めるため、政府及び行政の説明責任に貢献しうる。